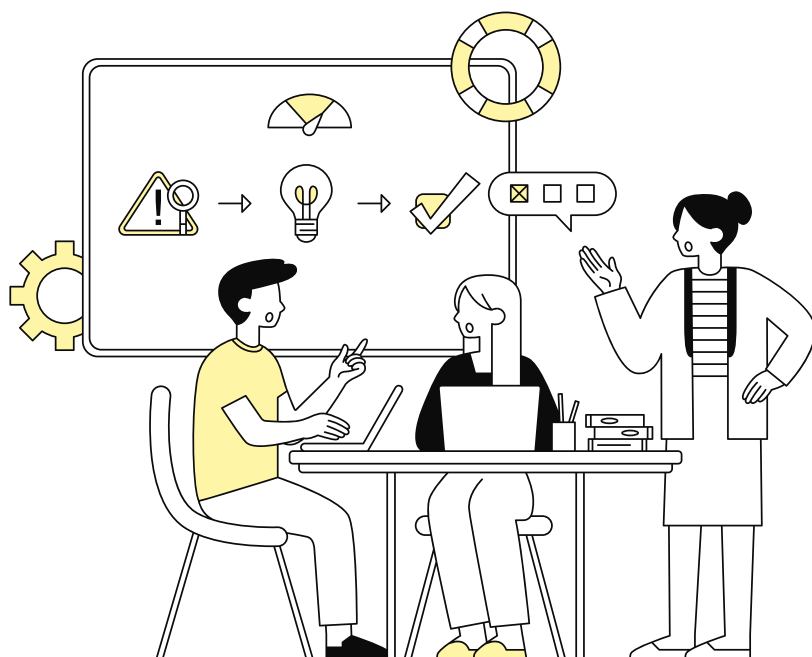


瀬戸市独自教科

みらい科 ハンドブック



瀬戸市教育委員会

Seto City Board of Education

TABLE OF CONTENTS

01

新しい学校づくりへの想い

02

社会の変化と教育の課題

03

めざす子どもの姿

04

「みらい科」の学びとは

05

小学校・中学校での学びの姿

06

ともに育てる学校へ

07

よくある質問（Q&A）

01 新しい学校づくりへの想い

基本コンセプト

子ども一人ひとりの多様な幸せ (Well-being) を中心に、誰一人取り残されない多様な学び合いの創造 ～地域とともに歩む“未来志向”の学び舎～

1 思い切り体を動かせる学校

運動や遊びを通して、体を動かすことの楽しさや面白さを感じるとともに、友達や仲間と多様な人間関係を築いていくことができる学校

2 明日また来たいと思える学校

学校外の諸機関（専門家、福祉機関、行政、NPO、大学、企業）等と連携・協働し、子どもたちが誰一人取り残されない、ゆとりと温かみのある、ほっとする学校

3 一人ひとりが輝ける学校

キャリア教育を軸に、様々な人たちと交流しながら、自己の課題に挑戦し、未来を切り拓く力を養い、伸ばしていく学校

4 誰とでも仲良くてできる学校

年齢・性別・障害・国籍といった多様性や自他のよさを認め合い、お互いに支え合いながらそれぞれのよさが発揮できる、共生社会の実現を目指す学校

02 社会の変化と教育の課題

1

学校を取り巻く社会の変化

今、学校は大きな変革期を迎えています。一人一台端末の導入により、子どもたちの学び方が変わりました。学校は単なる知識の伝達ではなく、保護者や地域の方と一緒に世の中を学び、子どもたちが社会の一員であることを自覚していく場へと変わりつつあります。まさに「地域とともにある」学校であることが求められています。

2

多様な学びのニーズへの対応

学校には、さまざまな能力や特性をもつ子どもたちが通っています。一人ひとりの違いを理解し、それぞれに合った学びの方法を工夫することが、今の教育現場に求められています。画一的な指導ではなく、個別最適な学びと、みんなで学び合う協働的な学びの両立が大切です。教員だけでなく、保護者や地域もその理解を深め、共に支える姿勢が必要です。

3

多文化共生の必要性

瀬戸市では外国にルーツをもつ児童生徒が増えており、学校は多様な文化背景をもつ子どもたちが共に学ぶ場となっています。言語や習慣の違いを乗り越え、互いを理解し尊重する力の育成が重要です。多文化共生の教育では、単なる「受け入れ」にとどまらず、「共に生きる力」を育むことが重視されます。地域全体で多様性を前向きに捉え、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる環境づくりが必要です。

4

自ら考え探究していく力

インターネットやSNSなど、情報があふれる現代では、子どもたちが自分で情報を選び、判断し、行動する力がますます重要になっています。単に知識を覚えるだけではなく、「なぜ?」「どうして?」と問いを立て、自分なりの答えを探す力を育てることが、これからの教育の中心になります。探究的な学びを通して、子どもたちが自分の考えを深め、他者と対話しながら、よりよい社会をつくる力を育むことが、これからの教育に求められています。

03 めざす子どもの姿

地域を知り、地域のことを考えられる子

地域の人や出来事に関心をもち、地域の課題や魅力について自分の視点で考えられる子どもを育てます。郷土への思いを育み、地域とともに生きる力を養います。

自分と他者の幸せを考えられる子

自分の気持ちを大切にしながら、友達や家族、地域の人々の気持ちにも目を向けられる子どもを育てます。Well-being（心と体の健康・幸福）を意識しながら、よりよい関係を築く力を育みます。

多様性を認め合い、共に生きる子

異なる文化や考え方をもち人と出会っても、偏見なく受け入れ、互いを尊重しながら協力できる力を育てます。多文化共生の社会を支える、やさしさと広い視野をもった子どもの育成を目指します。

仲間と力を合わせて、課題を乗り越えようとする子

一人では難しいことも、仲間と力を合わせて乗り越える経験を通して、協働的な課題解決能力を育てます。話し合い、考え、行動する中で、互いを認め合いながら共に学び合う姿勢を身につけます。



04 「みらい科」の学びとは

1. 地域を題材にした探究的な学び

子どもたちが住む地域の課題や魅力を題材に、自分たちで問いを立て、調べ、考える学びを行います。身近なテーマだからこそ、学びが実感につながり、地域への愛着や興味が深まります。



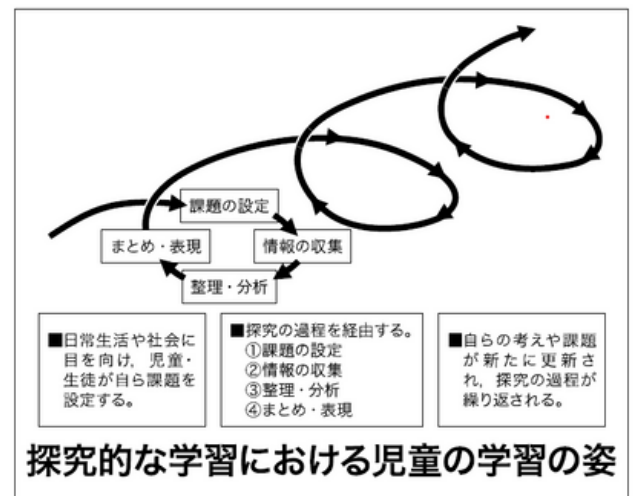
出典：瀬戸市教育委員会 副読本「新しいせと」

2. 9年間を通じた「学びのサイクル」

小学校から中学校までの9年間を通して、以下のサイクルを繰り返しながら、学びを深めていきます：

- ・ 課題の設定
- ・ 情報の収集
- ・ 整理・分析
- ・ まとめ・表現
- ・ 振り返り・改善

このサイクルを通して、思考力・判断力・表現力が育ちます。



探究的な学習における児童の学習の姿

出典：文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(小学校編)(令和3年3月) 20頁

3. 協働で進める“ワクワクする学び”

子ども・教師・保護者・地域が一緒になって学びをつくります。みんなが「ワクワク」しながら関わることで、学びが広がり、深まります。子どもたちは「知りたい」「わかりたい」という気持ちを原動力に、探究を進めていきます。

05 小学校・中学校での学びの姿

年間授業時数（みらい科）

1・2年生では生活科を中心に、3年生以降は総合的な学習の時間を中心に、他教科の内容も取り入れながら「みらい科」として体系的に学びを深めていきます。

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
時数	30	48	94	95	96	97	50	55	65

※他教科を含めた年間の総授業時数はこれまでと変わりません。また、学習指導要領に定められている内容はすべて学習します。

みらい科で学習することの例

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
テーマ	すてき発見！ みつばとまち		みんなで つくる まちの元気		みつばの 心で まちを つなごう		まちと生きる、 まちを創る		
単元名（例）	みつば小の ことを 知ろう	新1年生 にみつば 小を紹介 しよう	まちのガ イドツア ーをしよう	まちの環 境をよく しよう	災害に備 えて、ま ちを守ろう	まちの課 題を魅力 にかえて いこう	映画のテ ーマを決 めよう	様々なバ リアにつ いて考え よう	まちの課 題の解決 方法を考 えよう
	みつば小 をもっと 良くし よう	まちのす てきをみ つけよう	商店街を 元気にプ ロジェク トを立ち 上げよう	陶都千年 の魅力を つないで いこう	福祉や障 害について理 解しよう	みつば小 のよさを 次の世代 につなげ よう	地域の魅 力を発信 しよう	ユニバー サルデザ イン商品 を考えよう	市長と対 話しよう 会社を起 業しよう

1・2年生の学びの姿

テーマ

すてき発見！みつばとまち

1年生の学び みらい科の年間授業時数：30時間

単元例

みつば小のことを知ろう
みつば小をもっと良くしよう

みらい科に充てる教科及び時数と学習内容

- ・国語（9時間） 好きなことを伝える活動
- ・生活（21時間） 学校を探検する活動、年長児と交流する活動

2年生の学び みらい科の年間授業時数：48時間

単元例

新1年生にみつば小を紹介しよう
まちのすてきをを見つけよう

みらい科に充てる教科及び時数と学習内容

- ・国語（10時間） 思いを手紙で伝える活動
- ・生活（34時間） まちを探検する活動
- ・音楽（4時間） おまつりの音楽を作る活動

1・2年生の学びの姿

身近なふしぎに気づき、「なんで？」と問いかける子

- ・日常の中でふしぎを見つけ、「知りたい！」と目を輝かせる。
- ・わからないことを友達や先生に伝えながら、一緒に考えることができる。
- ・学ぶことが楽しく、学校が好きになる。

3・4年生の学びの姿

テーマ

みんなでつくる まちの元気

3年生の学び 未来科の年間授業時数：94時間

単元例

まちのガイドツアーをしよう
商店街を元気にプロジェクトを立ち上げよう

未来科に充てる教科及び時数と学習内容

- ・国語（10時間） 紹介する文章を書き、感想をつたえ合う活動
- ・社会（14時間） お店について調べ、まとめる活動
- ・総合的な学習の時間（70時間）

4年生の学び 未来科の年間授業時数：95時間

単元例

まちの環境をよくしよう
陶都千年の魅力をつないでいこう

未来科に充てる教科及び時数と学習内容

- ・国語（16時間） 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書く活動
- ・社会（9時間） ごみの処理について調べ、自分たちにできることを考える活動
郷土の伝統・文化と先人たちについて、調べまとめる活動
- ・総合的な学習の時間（70時間）

3・4年生の学びの姿

自分で調べ、友達と考えを伝え合う子

- ・興味をもったことを自分で調べてみようとする。
- ・グループで話し合いながら、考えを整理し、友達にわかりやすく伝える。
- ・地域の人や出来事にふれ、「もっと知りたい」という気持ちが増えていく。

5・6年生の学びの姿

テーマ

みつばの心で まちをつなごう

5年生の学び みらい科の年間授業時数：96時間

単元例

災害に備えて、まちを守ろう
福祉や障害について理解しよう

みらい科に充てる教科及び時数と学習内容

- ・国語（20時間） 伝えたいことを整理して、報告する活動
互いの立場を明確にして、話し合う活動
- ・社会（6時間） 自然災害及び防災について調べ、まとめる活動
- ・総合的な学習の時間（70時間）

6年生の学び みらい科の年間授業時数：97時間

単元例

まちの課題を魅力にかえていこう
みつば小のよさを次の世代につなげよう

みらい科に充てる教科及び時数と学習内容

- ・国語（6時間） インタビューをして、自分の考えと比べながら聞く活動
- ・社会（13時間） 政治の仕組みについて学び、まちづくりについて話し合う活動
日本と外国とのつながりについて調べ、まとめる活動
- ・家庭（8時間） 一食分の献立を考え、調理する活動
- ・総合的な学習の時間（70時間）

5・6年生の学びの姿

課題に向き合い、仲間と協力して解決しようとする子

- ・地域の課題を自分ごととして捉え、深く考える。
- ・仲間と意見を出し合い、協力してまとめ、発表する。
- ・振り返りを通して、自分の成長を実感する。

7～9年生の学びの姿

テーマ

まちと生きる、まちを創る

7年生の学び 未来科の年間授業時数：50時間

単元例 映画のテーマを決めよう
地域の魅力を発信しよう

未来科に充てる教科及び時数と学習内容

- ・国語（3時間） 構成や描写を工夫して書く活動
- ・音楽（4時間） 音のつながり方の特徴を生かして、創作表現をする活動
- ・総合的な学習の時間（43時間）

8年生の学び 未来科の年間授業時数：55時間

単元例 様々なバリアについて考えよう
ユニバーサルデザイン商品を考えよう

未来科に充てる教科及び時数と学習内容

- ・国語（16時間） 情報を整理して伝える活動、立場を尊重して話し合う活動
- ・美術（7時間） ユニバーサルデザインを制作・鑑賞する活動
- ・総合的な学習の時間（32時間）

9年生の学び 未来科の年間授業時数：65時間

単元例 まちの課題の解決方法を考えよう
市長と対話しよう
会社を起業しよう

未来科に充てる教科及び時数と学習内容

- ・社会（12時間） 私たちの暮らしと経済について調べ、現代の課題について考察する活動
- ・数学（5時間） 標本調査の結果について考察する活動
- ・家庭（4時間） 消費生活について調べ、消費者トラブルについて考察する活動
- ・総合的な学習の時間（44時間）

7～9年生の学びの姿

7～9年生の学びの姿

社会とつながり、自分の問いを深めていく子

- ・ 地域や社会の課題に対して、自分の視点で問いを立てる。
- ・ 専門的な知識やスキルを使って探究を進める。
- ・ 地域の人と協働し、成果を社会に向けて発信する。

06 ともに育てる学校へ

子どもたちの未来を育む『みらい科』の学び

■ 地域とつながる“リアルな学び”

みらい科では、教室の外に出て、地域の人や課題と直接関わる学びを大切にしています。子どもたちは、実際の社会の中で「自分にできること」を考え、行動する経験を積みます。

■ 自分の問いを深める“探究の力”

みらい科では、与えられた課題ではなく、自分で「問い」を立てることから学びが始まります。その問いを仲間とともに探究し、振り返りながら、より深い学びへとつなげていきます。

保護者と地域とともに創る『みらい科』

■ 学びのプロセスを共有する場づくり

成果だけでなく、子どもたちがどのように考え、悩み、成長していったかという「過程」を大切にしています。保護者や地域の皆様には、発表会や学びの記録を通して、そのプロセスと一緒に見守っていただきます。

■ 保護者や地域の方の問いかけや気づきが、“問いのヒント”になる

保護者や地域の方の日常の中にある「ちょっとした疑問」や「気づき」、そして体験された出来事が、子どもたちの探究のヒントになります。

「最近こんなことが気になって…」 「地域でこんなことがあったよ」といった何気ない話が、子どもたちの「なんで？」 「どうして？」を引き出します。

よくある質問

Q1

「みらい科」は通常の教科とどう違うのですか？

A1

「みらい科」は、国語や算数などの通常の教科と異なり、子ども自身が問いを立て、地域や社会の課題や魅力を題材に探究する教科です。教室の外での学びや地域との関わりを通して、思考力・判断力・表現力を育み、実社会に生きる力を養います。

Q2

総合的な学習の時間と何が違うのですか？

A2

「みらい科」は、総合的な学習の時間を発展させた教科で、9年間を通して探究の力を段階的・体系的に育てるカリキュラムがあります。学びのサイクルを継続的に積み重ねる点が特徴です。

Q3

成績や評価はどうなりますか？

A3

「みらい科」では、A～Cや1～5で評価をしません。探究の過程や姿勢、仲間との関わり方など、子ども一人ひとりの成長を丁寧に見取り評価します。通知表には文章で記載します。

Q4

週に何時間ありますか？

A4

学年によって異なりますが、通常は週に1～2時間程度を予定しています。ただし、地域でのフィールドワークや発表会など、授業内容に応じてまとまった時間を確保する場合があります。子どもたちがじっくり考え、行動できるよう、柔軟に時間を使っていきます。

よくある質問

Q5

保護者や地域の方はどのように関わればよいですか？

A5

特別な準備は必要ありません。日常の中で「なんでだろうね？」「気づいたことある？」と問いかけたり、「地域でこんなことがあったよ」と話したりすることで、子どもたちの探究のヒントになります。

Q6

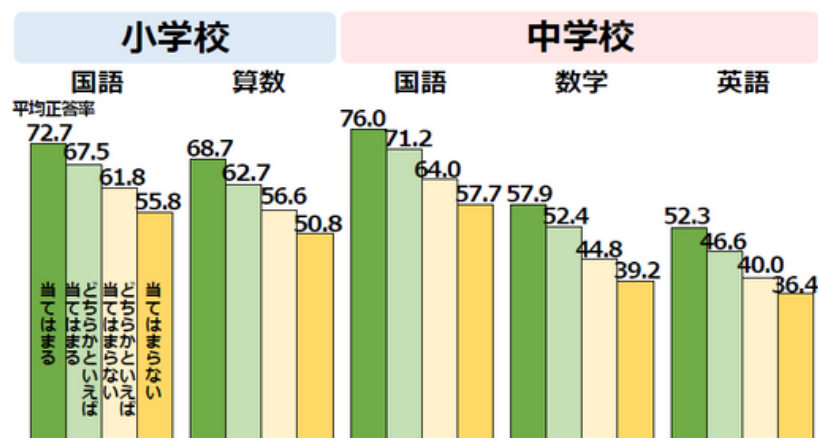
既存の教科の授業時数が減りますが、学力は下がりませんか？

A6

みらい科は、地域を題材にした探究的な学習を通して、既存の教科の内容を補完します。実社会の課題に向き合いながら「調べる・考える・伝える」力を育てることで、子どもたちは自ら学ぶ姿勢を身につけ、他教科の理解も深まり、学力の向上にもつながることが期待されます。（参考：下図）

「探究的な学習」に取り組む児童生徒は平均正答率が高い傾向

Q 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



出典：令和6年12月25日中央教育審議会初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）参考資料集（令和5年度全国学力・学習状況調査の結果）